

ひろしま郷土資料館だより

NO.105

企画展

実は広島

～こんなご縁がありました（食べもの編）

会期：令和4年12月10日（土）～令和5年2月26日（日）

全国的に広く知られている企業や製品の中には、広島発祥であったり、広島が大きなシェアをもったりしているものがありますが、そのことが案外知られていないケースがあります。本展覧会では、そうした事例を4つのテーマで紹介するとともに、それらを生み出した広島の産業や風土を関連付けてみよう企画したものです。



▲広島市郷土資料館（手前）とカルビー広島工場（奥）
（南から、昭和60年（1985）撮影）

まず取り上げたのが、「カルビー株式会社」です。その発祥の地が「実は広島」だったことをご存じでしょうか。

創業者の松尾孝^{まつおたかし}（1912～2003）は広島市に生まれ、戦時中は代用食を作るなどの事業を行っていました。戦後すぐに小麦やイモを手に入れてイモ菓子やパン、飴の製造をはじめ、のちにキャラメル^{キャラメル}の製造販売で繁

目次

P 1-3 企画展「実は広島」

P 3-4 企画展「広島の近代化を担った建物たち」

P 4-5 企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

P 5 スペシャルイベント「クイズでたんけん！郷土資料館」

P 6 ひろしま郷土史講座

P 7 活動報告 教室事業日程一覧

（令和4年10月～令和5年3月分）

活動報告 郷土史講座・その他事業

（令和4年10月～令和5年3月分）

P 8 次年度企画展の予定

盛ることになりました。昭和 24 年 (1949) 年にはカルビーの前身となる「松尾糧食工業株式会社」を立ち上げました。しばらくはキャラメルの人気で経営は安定していましたが、昭和 28 年 (1953) ごろから次第に売れなくなり、小麦を使ったあられの開発に乗り出しました。昭和 30 年 (1955) に「かっぱあられ」を発売、全国的な人気を得ることになりました。社名もこの年にカルビー製菓株式会社としました。さらにこれに瀬戸内のえびを練りこむことを着想し、昭和 39 年 (1964)、「かっぱえびせん」を売り出し、現在に続くロングセラーとなっています。本社は昭和 48 年 (1973)、東京に移りましたが、広島工場 (1986 年からは廿日市市に移転) は現在でもかっぱえびせんを作る主要な工場のひとつです。

さて、カルビーをめぐるもう一つ、「実は」があります。カルビー製菓の本社は、現在広島市郷土資料館がある宇品西公園の北隣にあったのです。そして両者は戦前、宇品陸軍糧秣支廠として同じ敷地にありました。郷土資料館は缶詰工場、カルビーは食肉処理場の煉瓦造りの建物の一部を利用したものです。

食べものの例のひとつとしては、海苔を取り上げました。海苔の養殖は、18 世紀の前半ごろから始まったとされ、江戸がその産地として知られていますが、それと比べてそんな色のないほどの生産地として成長していったのが、「実は広島」でした。広島での海苔養殖は、同じころ仁保や江波で始められたようです。以後、両地区のほか、草津、向洋などでも始まり、広島湾の干潟は牡蠣とともに海苔の一大産地となってきました。広島産の海苔は大坂市場で重宝され、海苔の産地は東の江戸、西の広島の地位を確立しました。明治に入ると広島での海苔養殖は、全国規模でみれば相当の隆盛を見せ、明治 24 年 (1891) には、とうとう広島は製品としての海苔の生産量が全国第 1 位となっています。



▲所狭しと乾された海苔
(現南区仁保、昭和30年代) 大下隆雄氏 蔵

広島での海苔養殖は明治の終わりごろをピークに全国的な地位を下げていきますが、第二次世界大戦中を除き、埋立てなどによって養殖場を減らしつつも、昭和 20 年代後半から 30 年台初めごろまでは堅調に推移していたようで、実際、昭和 31 年 (1956) の広島市の海苔生産量は、戦前・戦後を通じてピークを迎えました。しかしそのころから広島湾で相次いだ大規模な埋立てにより、養殖場は壊滅的に激減していきます。同じ干潟を養殖場としていた牡蠣養殖が筏式養殖法を採用して沖合での養殖に活路を見出した一方、全国的にはすでに沖合で養殖できる方法も確立していたにもかかわらず、広島湾での海苔養殖は、その方法を取り入れることなく絶えていき、現在では全くといっていいほど行われなくなりました。

展示ではこの他、企業としてはジャムやマーマレードのメーカーとして全国的に知られている「アヲハタ株式会社」を、かつて広島が全国屈指の缶詰生産県であったことと関連付けて紹介しました。瀬戸内沿岸で



▲缶詰ラベル「アヲハタのみかん」(昭和34年(1959)) アヲハタ株式会社提供

盛んに生産されていた、みかんの缶詰の製造をルーツとするというものです。

食べものとしては、広島県は鮮魚としての「イカ」の水揚げがほとんどないにもかかわらず、いわゆる「イカ天」や「姿フライ」をはじめとしたイカの加工品の生産が盛んで、全国有数の生産量を誇っていること、しかも呉や尾道にその工場が集中していることなどを紹介しました。(大室謙二)

会期中の来館者数：2,276名。



▲呉の定番おつまみ、「姿フライ」

企画展「広島近代化を担った建物たち —建造物からたどる広島の歴史—」

会期：令和5年3月11日（土）～5月7日（日）

広島市では、平成5年(1993)から被爆建物の台帳への登録を始め、また広島県では、平成8、9年(1996、1997)に「広島県近代化遺産(建造物等)総合調査」を行い、報告をまとめました。いずれも、建造物の取り壊しや改変を危惧し、その実態や価値を把握して保存措置を検討することを意図したのですが、そこから現在まで30年近く経過する間に、残念ながら失われてしまった建物もいくつかあります。



▲絵はがき「宇品陸軍糧秣支廠 廠舎」
右の缶詰工場が現在の広島市郷土資料館

本展示では、現在広島市域に残っている明治から戦前にかけて作られた建造物を、軍事、ライフライン、金融・産業、教育、町の安全などの視点からいくつか取り上げ、広島の近代化を担った建物として紹介することで、広島の歴史のひとこまをたどってみたいと試みました。

明治時代以降、わが国は西洋の制度や文化を取り入れて近代化を図っていきます。建物も、西洋風の外観を持つ木造の建築に始まり、西洋文化を象徴する煉瓦造りの建物がたくさん建てられ、大正12年(1923)の関東大震災以降は、より耐震性の高い鉄筋コンクリート造りの建物が主流となっていきます。

「富国強兵」のスローガンに代表される軍事施設には煉瓦造りが多く取り入れられました。第5師団を有する広島は全国でも有数の陸軍の拠点で、日清戦争を契機に、軍都として大きく踏み出していきます。のちに「陸軍の三廠」と呼ばれる宇品陸軍糧秣支廠、広島陸軍被服支廠、広島陸軍兵器支廠は、広島の兵站基地としての性格を象徴する施設です。これらの工場や倉庫は、旧糧秣支廠と旧兵器支廠では煉瓦造りですが、旧被服支廠は鉄筋コンクリート造りに煉瓦貼で仕上げられています。

また広島のライフラインの整備にも軍の事情が大きく関わっていました。軍用水道の設置から広島市水道

への接続が実現し、全国でも 5 番目という早さで上水道が敷設されました。これらの水道施設も当初は煉瓦造りで、いく度かの改修で鉄筋コンクリート造りが採用されていきます。なお、近年行われた基町のサッカースタジアム建設に伴う発掘調査で、この場所に配備されていた旧輜重^{しちやうたい}隊の遺構から軍用水道管が出土しており、明治 31 年（1898）水道敷設当時に設置されたもの（1896 年製）は写真を、また昭和 5 年（1930）製のものは実物を展示しました。

また、増大する電力需要に対しては、電気会社が設立され、旧亀山発電所が建てられています。明治時代末期に広島城の外堀や運河を埋め立てた跡地をベースに路面電車の軌道が開設されると、電車のための発電所（のち変電所）も煉瓦造りで建設されました。

金融の近代化には銀行が大きな役割を果たしました。旧三井銀行（旧帝国銀行）や旧日本銀行は現在も建物を活用しながら保存されています。旧三井銀行からベーカリーに転身した広島アンデルセンは、被爆建物としての活用と保存に一つの回答を見せています。また、今は原爆ドームとして世界中に知られる広島県物産陳列館は、躍進する広島の産業を支える役目を果たしました。

学都とも呼ばれた広島では、明治 5 年（1872）の学制発布の翌年には尋常小学校が設立され、昭和の初めには近代的な設備を持つ鉄筋コンクリート造りの校舎が建てられます。また、高等教育への熱意も高く、明治時代に開校した広島高等師範学校を母胎とした広島文理科大学や、旧制広島高等学校など、多数の高等教育機関が設けられました。

町を守る警察としては、市内に現存する数少ない明治の木造洋風建築である旧広島水上警察署が残されています。また旧広島測候所で行われた近代的な気象観測は、農業や航海、防災など人々の生活や安全に大きく貢献し、現在も江波山気象館として使用されている美しい建物に移ってからも続けられました。

江戸時代、城下町では防衛上の理由で架橋が禁止されていましたが、明治以降はそれも解禁となります。しかし多額の費用がかかる架橋は簡単ではなく、木造の橋がいわゆる永久橋へと架け替わっていくのは大正時代の終わり頃からです。原爆投下にも耐え現在も残る被爆橋梁はわずか 6 橋ですが、猿猴橋のように戦前の金属回収で失われた装飾などを復元し、華麗な姿を見せているものもあります。

パネルが中心とならざるを得ない本展示ですが、ひろしま紙工房様のご協力により、「折り紙建築」と呼ばれるペーパークラフトでいくつかの建物を立体的に紹介することができました。イメージを膨らませて頂ければ幸いです。

今回は取り上げられなかった建造物もありますが、それらも含め、まずは今見ることのできる広島の近代化を担った建造物を訪ねてみてはいかがでしょうか。（前野やよい）



▲展示のようす

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：令和 4 年 9 月 3 日（土）～11 月 27 日（日）

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は、小学校中学年の国語科で学習する童話『ごんぎつね』のストーリーに沿って、社会科の学習単元「昔の暮らしの道具と人々の暮らしの様子」で学ぶ昔の生活道具を紹介するもので、平成 13 年度から当館の恒例展示として開催しています。

展示は、物語の舞台でもある江戸時代終わり頃～昭和の初め頃までの農村での暮らしに使用されていた生活道具を中心に、登場人物の兵十が魚獲りに使っていた「はりきり網」や「魚籠^{びく}」、行商で使われる「皿ばかり」や「大八車」、物語の最後に出てくる「火縄銃」などの実物の道具によって物語の世界をより身近に感じることができる内容となっています。また、昔の道具と現在の生活用具との違いや昔の人々の暮らし方など、道具を通して様々な発見をしていただける場となることを目的としています。

童話『ごんぎつね』は、昭和55年（1980）以来小学4年生のすべての国語の教科書に採用されている新美南吉の代表作であり、幅広い世代に親しまれている作品です。開催期間中は、学校団体での来場のほか、学校での学び

をより深めるために来場した小学生と保護者世代や、展示してある道具を実際に使用したことがあり昔を懐かしむシニア世代など、様々な世代にそれぞれの視点で楽しんでいただきました。

また、物語の作者である新美南吉は、29歳という若さで病で亡くなりますが、その間に数多くの童話作品を世に送り出しています。会場では作品が生まれた背景にもなった新美南吉の生涯についての紹介も行いました。

今後も、学校等の学習の一助及び来場される方の新たな発見の場となるよう工夫をしていければと思います。（寺田香織）

会期中の来館者数：3,443名



▲展示のようす

『ごんぎつね』のストーリーをたどりながら、「とる」「すまう」「つくる」などジャンル別に昔の道具を展示

スペシャルイベント「クイズでたんけん！郷土資料館」

開催日：令和4年11月3日（木・祝）

11月3日、文化の日にスペシャルイベントとしてクイズラリーを行いました。館内の展示物をクイズを解きながらじっくり見ていただくという企画で、問題10問を用意しました。当日は、企画展『ごんぎつね』が語る昔のくらし開催中のため、「ごんぎつね」の問題を2問作りました。また「ごんぎつね」と同期間開催中の、パネル展示「広島^の海～海図に見る広島^の海～」（第六管区海上保安本部と共催）から1問出題しました。この日は第六管区海上保安本部の職員の方に来ていただいて、海図の問題を解いている参加者に「海図」の仕組みなどをわかりやすく教えていただきました。参加者のみなさんはグループごとに館内の問題を探しながら、楽しくクイズに答えていました。参加賞として、特製ハガキや海保のペーパークラフト、クリアファイルなどをお渡ししました。（河村直明）



▲解答を考えている小学生



▲海図を説明する第六管区海上保安本部の職員

当日の参加者：123名

ひろしま郷土史講座

開催日：令和5年1月14日（土）、2月4日（土）、3月3日（金）

会場：広島市郷土資料館、広島市水産振興センター

広島市郷土資料館では、郷土の歴史を体系的に学べる連続講座として「ひろしま郷土史講座」を平成29年度以降秋から冬を中心に開講しています。

今年度、冬の企画展は「実は広島～こんなご縁がありました（食べもの編）」なので、郷土史講座のテーマも、広島モノづくり（食べもの編・その歴史と現在）とし、食品工業（缶詰）、農業、漁業について学ぶこととしました。

第1講は、ヌマジ交通ミュージアム（広島市交通科学館）の田村規充主任学芸員が「広島缶詰業の沿革」と題して、戦前の広島が全国屈指の缶詰生産県であったこと、平和記念資料館下の発掘調査で発見された缶詰工場について話していただきました。中国山地で牛、瀬戸内海の水産物、野菜や栗、松茸などの産物が安く豊富に安く入手できたことを背景に、明治期以来、第五師団を擁し、陸軍の兵站を支えた宇品港や、呉に鎮守府、軍港を抱えていた広島では戦争が起こるたび、膨大な軍需を支えるため缶詰製造業が発展していったことなどを学びました。

第2講は、広島市経済観光局農林水産部農政課の檀上忠久課長補佐から「広島市の農業～地産地消を進めよう！～」と題して、お話をいただきました。広島市内では、産地と消費地が近いという都市近郊農業の利点を生かし、鮮度の求められる葉物野菜の生産が盛んであることや、若い生産者が徐々に増えていることなど広島市の農業の現状について学びました。「ひろしまそだち」にみる今後の農業についてもお話いただきました。広島野菜料理レシピの紹介もありました。第1・2講は郷土資料館講堂で行いました。

第3講にあたる社会見学は西区の広島市水産振興センターで、田村征生栽培漁業課長と吉田洋主任技師が「広島市の水産業～育てる漁業を中心に～」と題し、広島湾漁業の話（カキ養殖・育てる漁業）と種苗生産施設見学（この時はマコガレイの赤ちゃんの養殖中でした）、「魚と漁業の資料館」見学を行いました。

これまでの歴史中心の内容や展示とは、異なった切り口でしたが、缶詰工業と広島の深い関係、身近な広島市の農業・漁業の歴史・現状や課題・展望について、知らなかったことも多く、参加者には大好評でした。生産者にとっても消費者にとっても、身近なところから地球環境問題に関わるまで、農業・漁業の地産地消の大切さやメリットがよくわかりました。また比較的若い参加者もおられ関心の高さを感じました。（河村直明）

講座の延べ参加人数：92人



▲第2講「広島の農業」の様子



▲社会見学「種苗生産施設見学」の様子



▲マコガレイの赤ちゃん

活動報告

令和4年10月～令和5年3月

教室事業

実施日	事業名	参加者
10月16日(日)	教室 「山まゆ糸でプレスレット作り」	15名
10月22日(土)	教室 「手すきハガキ作り」	16名
11月19日(土)	大人向け教室 「うさぎの水引飾り作り」	15名
11月26日(土)	親子教室 「絵手紙で年賀状作り」	11組18名
12月17日(土)	教室 「勾玉作り」	18名
12月24日(土)	親子教室 「羽子板作り」	8組20名
1月21日(日)	親子教室 「チョコレートで花束を！」	9組17名
1月28日(土)	教室 「糸つむぎ体験」	19名
2月19日(日)	大人向け教室 「真っ赤に染めよう！染色体験」	19名
3月18日(土)	教室 「もんきりのランタン作り」	11名

文化の日スペシャルイベント（新型コロナウイルス感染症予防の観点から令和4年度も「駄菓子作り広場」は中止）

実施日	事業名	参加者
11月3日(木・祝)	クイズラリー「クイズでたんけん！郷土資料館」	123名

ひろしま郷土史講座

実施日	事業名	参加者
1月14日(土)	第1講「広島缶詰業の沿革」	34名
2月4日(土)	第2講「広島市の農業－地産地消を進めよう！－」	30名
3月3日(金)	社会見学・広島市水産振興センター 「広島市の水産業－育てる漁業を中心に－」	28名

その他の事業

実施日	事業名	主催等	参加者
10月29日(土)	工作指導「ミツバチのからくり のぼり人形づくり」	秋のグリーンフェア2022実行委員会	228名
11月25日(金)	授業「文明開化時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 ・白島小学校	53名
11月29日(火)	授業「文明開化時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 ・千田小学校	92名
12月19日(月)	授業「博物館資料論」	広島市立大学	16名
1月18日(水)	授業「職業探究セミナー」	基町高等学校	17名
2月15日(水)	授業「文明開化時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 ・幟町小学校	74名
2月22日(水)	授業「文明開化の時代の広島」	まちなか西国街道推進協議会 ・袋町小学校	33名
2月22日(水)	フィールドワーク「平和大通り 発見今昔めぐり」	生協ひろしま碑めぐりガイドの会	18名

令和5年度(2023) 企画展紹介

広島サミット県民会議応援

企画展 「別世界 元宇品

ー陸地とつながった島の変容ー

令和5年5月20日(土) ～7月2日(日)

宇品島(現元宇品)は、今から139年前の宇品築港事業により陸続きとなりました。以降、リゾート地ともなった島の移り変わりや住民の暮らし、歴史の痕跡について紹介します。



昭和33年(1958)
宇品天然水族館での象のショー 当館蔵

企画展 夏休み おばけの博物館

令和5年7月15日(土) ～8月27日(日)

夏に必ず話題となる「おばけ(妖怪や化け物)の世界」を紹介するとともに、おばけを生み出した昔の人々の暮らしや思いも紹介します。昔の「おばけ屋敷」の疑似体験もできます。



定番の「鬼」実は・・・

企画展 「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

令和5年9月9日(土) ～11月26日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーをまじえながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



ごんぎつねと昔の道具

企画展 「実は広島2ーモノづくり編ー」

令和5年12月9日(土) ～令和6年2月25日(日)

全国的に広く知られている企業や製品の中には、広島発祥であったり、広島が大きなシェアを持ったりしていながら、そのことが案外知られていないケースがあります。今回の展示では、そうした事例の中からモノづくりに関わるものをご紹介します。



明治時代の針商
(『広島諸商仕入買物案内記』より) 当館蔵

企画展 「歩いて楽しい、本通」

令和6年3月9日(土) ～5月6日(月・休)

江戸時代に広島城下に引き入れられて以降、今日まで広島有数の繁華街としてにぎわってきた本通筋。その歩みを通して郷土の移り変わりを振り返るとともに、これからのまちづくりを展望します。



大正時代
絵葉書(広島名勝)革屋町本通 当館蔵

状況により、臨時休館や展示会期・教室事業等の変更または中止の可能性があります。
あらかじめご了承ください。最新の情報は当館ホームページ等でご確認ください。

ひろしま郷土資料館だより No.105

令和5年(2023)3月31日発行

編集・発行 (公財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772

URL <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>

